広報くろさき 2
平成八年二月一日発行（毎月1日発行）三八九号
〒九五〇―一一 新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三―一 電話／〇二五―三七七―三一〇一 編集／企画商工課（担当・広報統計係） 印刷／小野塚印刷㈱ 経費一部 六十一円

人 123 短歌集「夕茜」を出版される

中学通・七十八歳 泉井 ヨ子さん

大正琴、詩吟、書道、華道、ダンスなど町内公民館では、様々なクラブが活動している。その中でも黒埼短歌会は、昨年二十周年を迎えた歴史のある会だ。この会に所属し、やはり二十年短歌を詠み続けてこられたのが泉井ヨ子（わくいよね）さん。昨年十二月に、ご自身の作品を『夕茜』という一冊の短歌集としてまとめられた。「短歌を始めて二十年たちましたし、七十八歳になって、先もいくらもないので、今までやってきた事を一つの区切りにしようと思いまして」歌集を出されたとおっしゃる。二十年の活動を五年毎に四つの章に区切って構成され、六百六十二首が収められている。

泉井さんは、昭和五十年に退職するまで教員を勤められたが、文学が好きだったので「やめたら、心ゆくまで深めていこう」と退職の二年ほど前に思っていて、短歌を始められたという。

短歌は、平凡な日常からは、その素材を見つけにくい。そのため「高村光太郎の『智恵子抄』を読んで、そのあとを訪ねたり、石川啄木を学びながら、その現地を訪ねて思いを深め、自分の感動したことを短歌にすることが好きなんです。例えば北上川のほとりに啄木の石碑がありますけれど、その川の様子をメモしておいて、作品に入れると活き活きとしたものが出来ます」さらに「短歌を勉強しているうちに鳥や花などの自然に目を向けられる、愛情を持って接する事ができるようになり、人生に幅ができたと思います。短歌を作る時は、添削（色々な言葉を使ったり、順番を組み換えたりする作業）をして容易ではないけれど、そうやって創りだした時の喜びや感動が短歌の醍醐味ですね」短歌を始めて、物を深く見つめて考えるようになり、人生の幅が広がったとおっしゃる。

写真／泉井さん。ご自宅で撮らせていただいた。手にお持ちいただいたのが、今回出版された短歌集の『夕茜』。
泉井さんは短歌のほかに書で県展入選を果たしているが、「婦人部長の仕事を引き受けてからは無理するといけないので今は短歌だけやっています」とおっしゃる。

泉井さんは、短歌以外にも黒埼町老人クラブ連合会の婦人部長を勤めていらっしゃる。「私が婦人部長になったころは、活動も男女別々に行っていました。それで、一緒に活動しようと提案をして今は、男女一緒に楽しく活動するようになりました」と町老連でも精力的に活動していらっしゃる。

泉井さんの短歌集は短歌会の仲間などに贈られた。ご主人が病気をし、お亡くなりになる時の歌も載っており、短歌仲間から「『随分辛い思いをしたんだね』と、感想を頂きました」とおっしゃる。どうか、いつまでもお元気で、次の"短歌集"を作って頂きたいと思った。

「風の万里　黎明の空」上・下

小野不由美 著　講談社Ｘ文庫

十二国という異界で繰り広げられるファンタジーのシリーズのひとつ。この世界には不老不死の仙という人々と神、普通の民、半獣半人の生き物や妖魔などが住んでいる。そこに日本から虚海を経てときおり海客と呼ばれる人々がやってくる。この作品では海客の少女陽子と鈴、王位にあった父と母を目前で殺された祥瓊の三人の少女を軸に、中国のような雰囲気を持つ異界での冒険が描かれる。逆境の中で泣き言をいっていた少女たちが、たくましく前向きに生きようと成長する姿が快い。骨太な歴史小説のような作品です。

（中山佳奈恵）

〈人の動き〉

12月末日現在		（前月比）	〔前年同日比〕
人口	24,197	（＋ 48）	〔＋132〕
男	11,871	（＋ 22）	〔＋ 74〕
女	12,326	（＋ 26）	〔＋ 58〕
世帯	6,967	（＋ 25）	〔＋206〕

12月1日～末日

出生	18	転入	80
婚姻	29	転出	35
死亡	15		

編集室

平成七年一月十七日多くの方々の命を奪い、阪神地方に大打撃を与えた、阪神・淡路大震災から一年が過ぎました。兵庫県、神戸市、西宮市などでは、平成八年同日に犠牲者のめい福を祈るため追悼式が営まれました。あれから一年、道路整備などの公共投資がつぎこまれ、この震災でまひしていた経済活動も徐々に再生してきていますが、完全なる復興をとげるには、まだ多くの時間を必要としています。一日も早い復興と犠牲になられた方のめい福を心よりお祈りいたします。

▼昨年は、県内でも地震や水害が多い一年でした。「災害は忘れたころにやってくる」の諺どおり、予測が出きないものです。普段から非常用食料や持出品など点検することが大切ではないでしょうか。▼今月号では二十一日より行われる早津剛展などをお知らせしましたが、いかがだったでしょうか。二十数年にわたって描き続けた雪国の民家百点が展示されます。ぜひ、ご覧になってください。

◎さて、来月号では、平成六年度の一般、特別会計の決算などをお知らせしたいと思っ